

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣

医

の

カ

ル

テ



⑦



山王ペットクリニック院長

(富山市上杉)

大霜 唱治

尿石症(尿路結石症)は体内で尿を生成し、排せつするまでの器官(腎臓、尿管、ぼうこう、尿道)に、主にミネラルを主成分とする結晶や結石ができる病気のことです。結晶や結石は器官を傷つけ、尿の排せつを困難にします。臨床的には尿に血液が混じったり(血尿)、少量ずつ何度も排尿したり(頻尿)、排尿姿勢をするものの尿が全く出なかったり(閉尿)などさまざまな症状を示します。犬も猫も雌のほうが雄よりも尿道が広いので、結晶や結石は比較

雌犬の尿石症



雌の小型犬のぼうこうから摘出した尿石。最大で直径3mmあった

処方食は指示通りに

的排せつされやすいことから、尿石症は雌より雄で問題になることが多いと思われがちです。しかし、雌の尿道開口部(尿が出る所)は肛門に近く、尿道開口部からぼうこうまでの距離が短いという特徴から、雌のぼうこうは常に細菌感染を受けやすい状態にあります。

結石の中には、ぼうこう内で結晶と細菌が結びついてできるものもあります。それらの結石は、ぼうこう内で成長し続け、直径が3mmを超える巨大な「石」となるものもあります。写真は雌の小型犬のぼうこうか

ら摘出した尿石です。「3年前から血尿を繰り返し、最近また血尿が出てきたので精査してほしい」と来院されました。尿検査、ぼうこうのエコー検査、レントゲン検査で数個の結石を確認したため、ぼうこうを切開し摘出したところ、結石は最大で直径3mm、総数は24個でした。ぼうこうの粘膜は、はれて著しく厚くなり、弾性が消失していました。血尿はもちろんだまざままぼうこう

炎の症状を示しても不思議ではありません。成分分析から、食事療法で管理できる結石だと判明しましたので、現在「処方食」と呼ばれる病院管理食で再発を防いでいます。処方食は一般に販売されている「総合栄養食」とは全く異なります。現在、スーパーやペットショップで購入できるフードは「総合栄養食」と記載されています。米国の飼料検査官協会が、犬猫の成長ステージごとに決めた「栄養基準」を満たしているフードかどうかを示しています。一方、「処方食」はその栄養基準から外れています。ある特定の疾患に効くように調整されています。このため、処方食を食べないからといって総合栄養食を混ぜることは、処方食の効果を著しく低下させます。全ての処方食は指示通り正しく与えてください。